

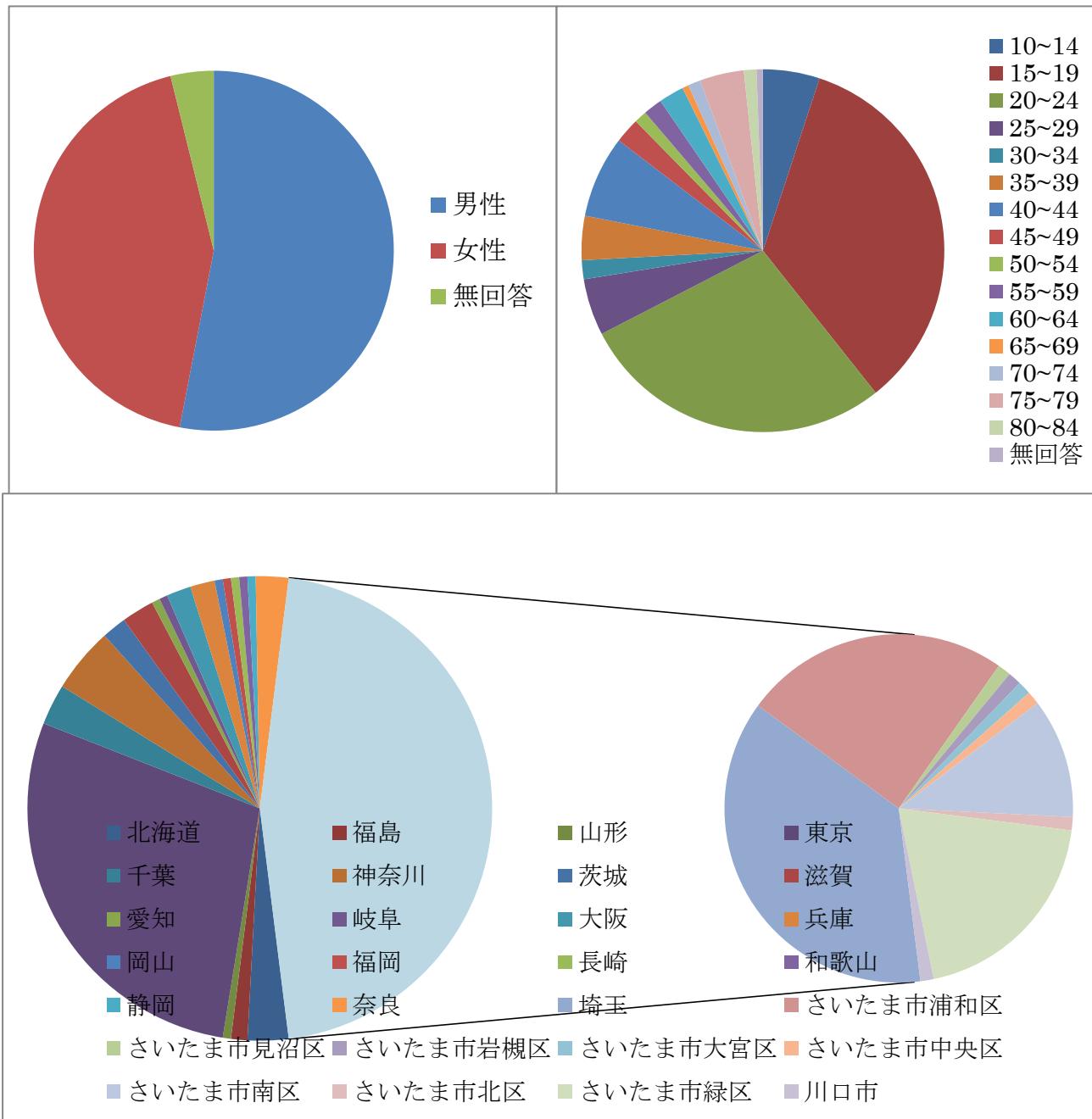
政策研究：「外国人との共生社会」についてのアンケート

武正公一議員事務所 28期インターン

片岸・神谷・高塚・田村・藤田

——私たちは、「外国人との共生社会」というテーマで共同研究をしております。
その意識調査として、外国人に対するイメージを伺いたいと思います。
ご協力お願いいたします。——

A) 回答者様基本情報



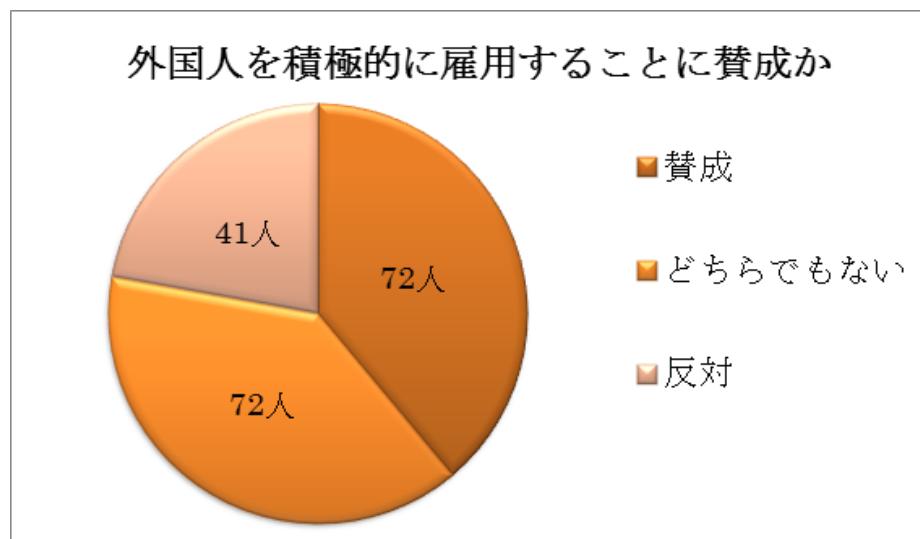
B) あなたの外国人に対するイメージを簡単に教えてください。

→結果、雇用面の間に関しては賛成の意見の方が多かったものの、実際に外国人と共に暮らしていくことに関しては、否定的な意見が目立ちました。その中で大きく分けて、「外国人と共生していこう！」という意見と「外国人は排斥すべきだ！」という意見がみられました。

この否定的な意見はなぜ生まれるのか？それは私たちの【認識】の問題だと思います。ほかにも「文化、習慣、宗教、言葉、価値観の違いを埋めるのは難しいと思う」、「人間性が良いのなら受け入れる」、「日本のルール慣習を理解してほしい」といったものがありました。もちろん、外国人自身の問題もありますが、まずは日本人の外国人に対する認識を変えていくことが不可欠だと思いました。

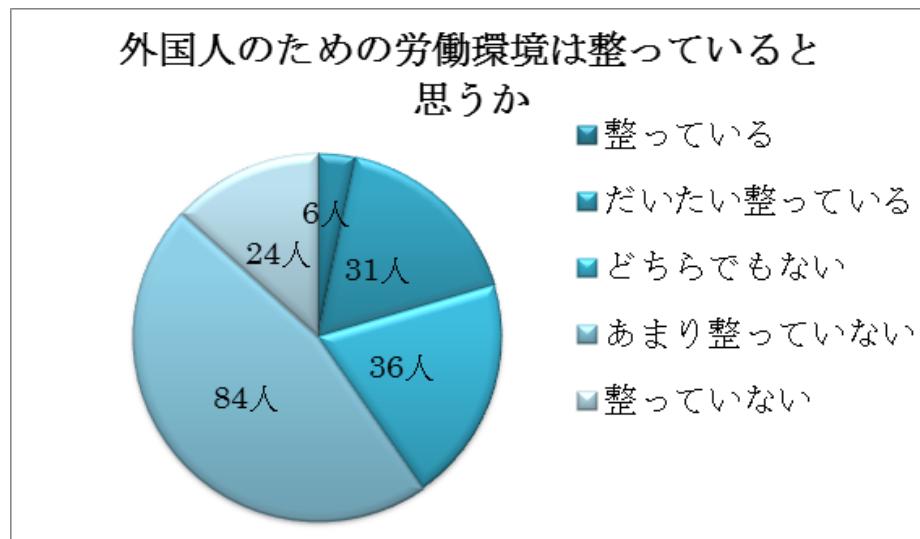
C) 外国人を積極的に雇用することに賛成ですか？

1. 賛成
2. どちらでもない
3. 反対



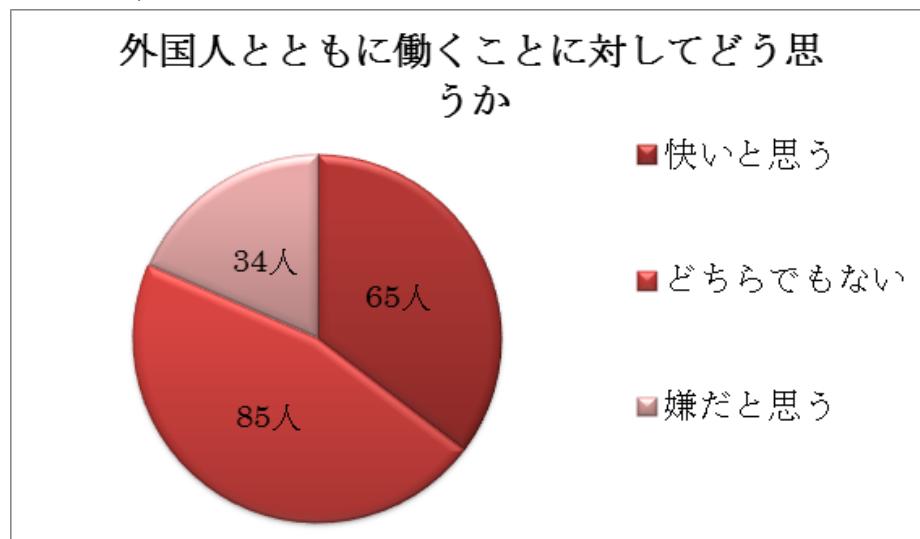
D) 外国人のための労働環境は整っていると思いますか?

1. 整っている
2. だいたい整っている
3. どちらでもない
4. あまり整っていない
5. 整っていない



E) 外国人と共に働くことに対して、どう思いますか?

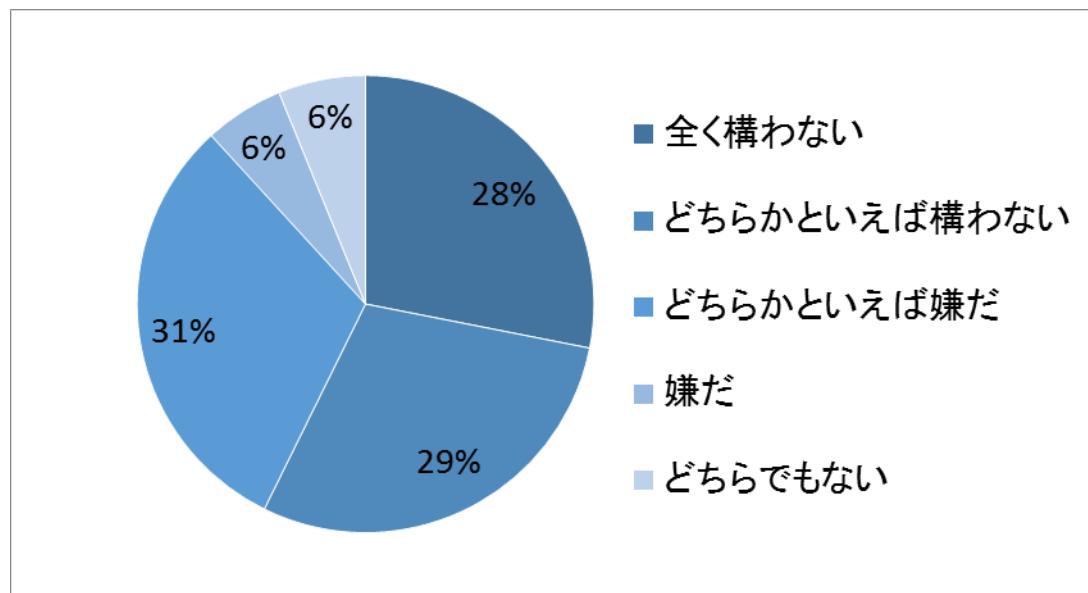
1. 快いと思う
2. どちらでもない
3. 嫌だと思う



→CDE の結果から当初の予測に反して国民の皆様のは総じて外国人を積極的に雇用していくことには賛成で、外国人とともに働くことに対して、多くの方が嫌ではないと答えて下さった。これに対して、外国人のための労働環境の方は整っていないという意見が多数だった。このことから、このことから外国人を積極的に雇用していくためには外国人の労働環境の更なる改善が必要であるということが国民の皆様の多数意見であることがわかった。

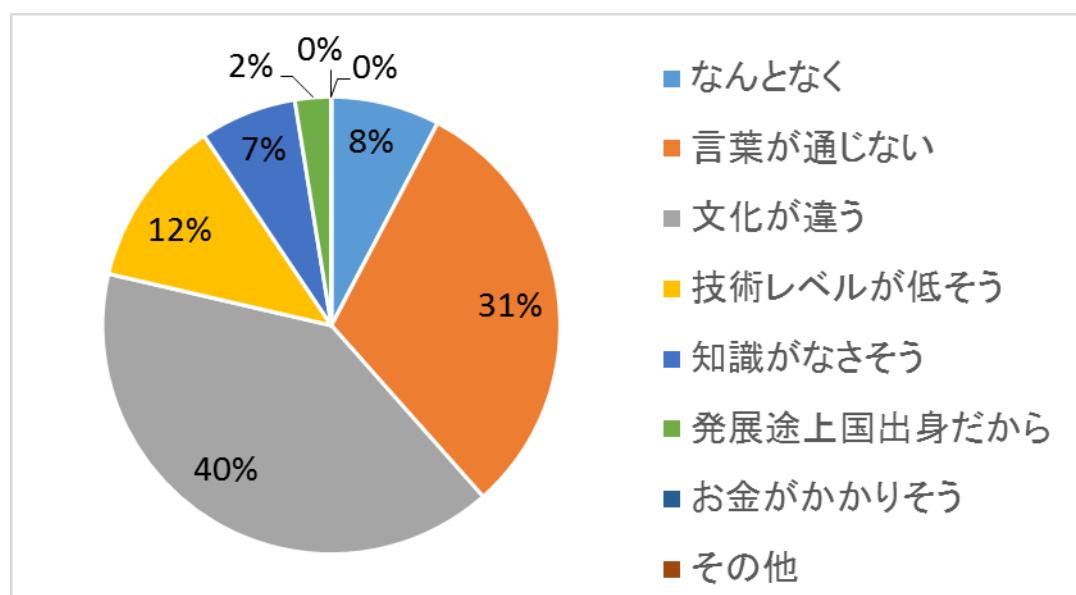
F) 自分が外国人介護士に介護されたら、どのように感じると思いますか？

1. 全く構わない
2. どちらかといえば構わない
3. どちらかと言えば嫌だ
4. 嫌だ
5. どちらでもない



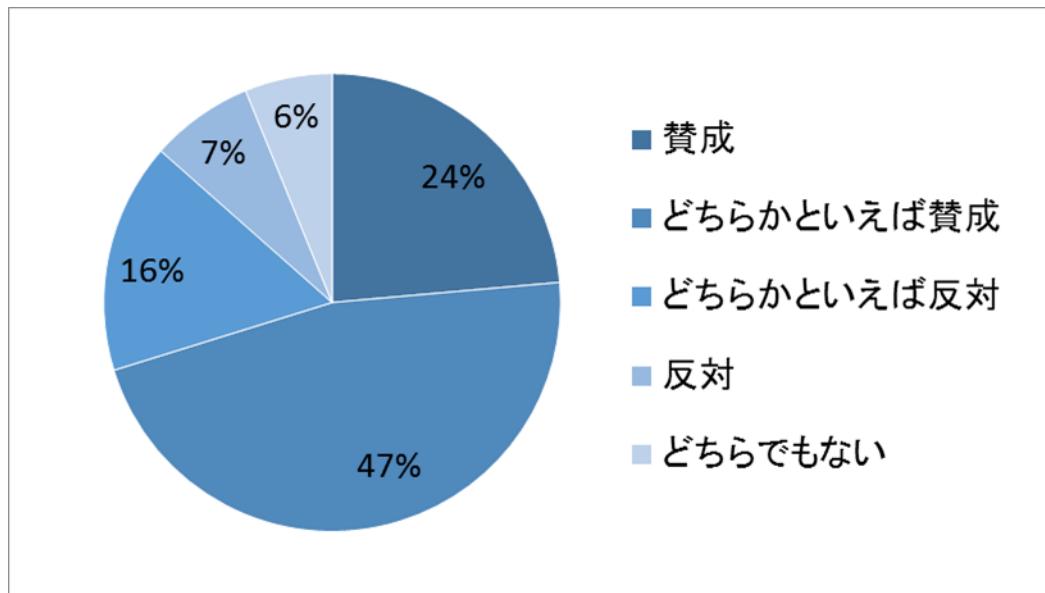
G) (B)で3.または4.を選んだ方) その理由はなぜですか？ (複数選択可)

1. なんとなく
2. 言葉が通じない
3. 文化が違う
4. 技術レベルが低そう
5. 知識がなさそう
6. 発展途上国出身だから
7. お金が掛かりそう
8. その他



H) 介護士不足を外国人労働者で補うという制度に賛成ですか？

1. 賛成
2. どちらかと言えば賛成
3. どちらかと言えば反対
4. 反対
5. どちらでもない



→F,H の結果より

F では「自分が外国人介護士に介護されるとしたらどう思うか」という項目で構わない、またはどちらかといえば構わないは合わせて 57%、嫌だ、どちらかといえば嫌だは合わせて 37%となっていた(どちらでもないが 6%)。加えて H では「介護職の不足を外国人で補うことどう思うか」という質問にたいしては賛成、どちらかと言えば賛成の合計が 71%、反対、どちらかと言えば反対の合計が 23%(どちらでもないが 6%)となっている。"自分が" という個人的な場合と一般論との好意的評価の違いからは「外国人を受け入れることは賛成だけど自分はちょっと…」というような心理的な距離感を垣間見ることができるだろう。

→G の結果より

なぜ自分が外国人介護士に介護されることを好ましく思わないか尋ねたところ、「なんとなく」をのぞいて多かったのがまず文化の違い、そして言葉の違いであり、その後に技術レベルの低さがあげられた。しかし受け入れ制度ではしっかりと日本語研修、そして実務研修があり、多くは自国すでに経験を積んできた人々である。そして文化に関する教育・研修も行えば、マイナスの感情の主要な要因は軽減できるのではないだろうか。

また、FGH の 3 つの質問を通じて性別差、年齢差はあまり見られなかった。

I) 「日本に住む外国人」という言葉を聞いて、最初に浮かぶ人のイメージは以下のうちどれですか？

1. 出稼ぎに来ている(肉体労働に従事している)
2. ビジネスを行っている(出張・起業など) 3. 日本の文化が好き
4. 故郷を追われた難民 5. 在日中国・韓国人 6. 2世・3世 7. ハーフ
8. 不法滞在 9. その他

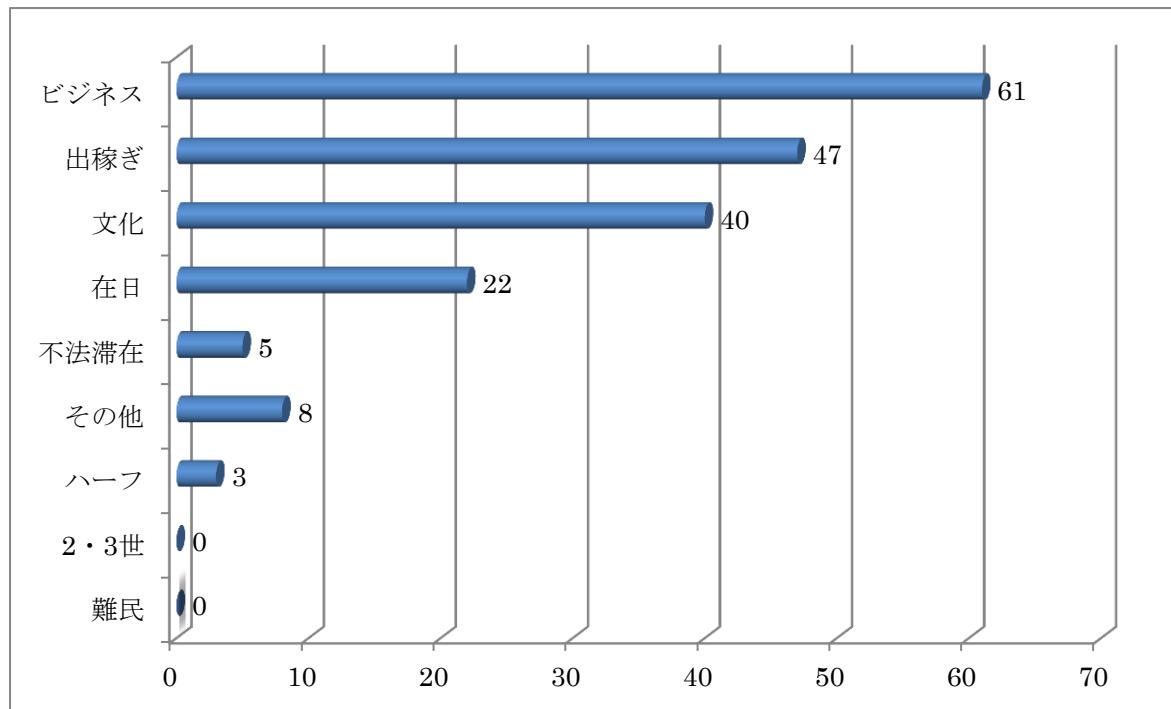


Figure 1 「日本在住の外国人」という語から連想するイメージ (有効回答数: 186)

本設問では、序論にあげたように、「ともに住む外国人」の問題を考えるとき、難民を意識する人は少ないのではないか、という仮定を基に作成した。結果、難民を最も意識する人は全回答者中 0 人であった。仮定の通り、外国人問題における難民の地位は非常に低いようである。

J) あなたの住むコミュニティー(市・区など)に難民が住むことになりました。その際、あなたが難民にしたいと考える支援にはどんなものがあるでしょうか？(複数選択可)

1. 日本語を教える
2. 慣習やルールを教える
3. 地元の行事に誘う、地元の仲間に入れる
4. 自分にできることはない
5. 難民には関わりたくない
6. その他

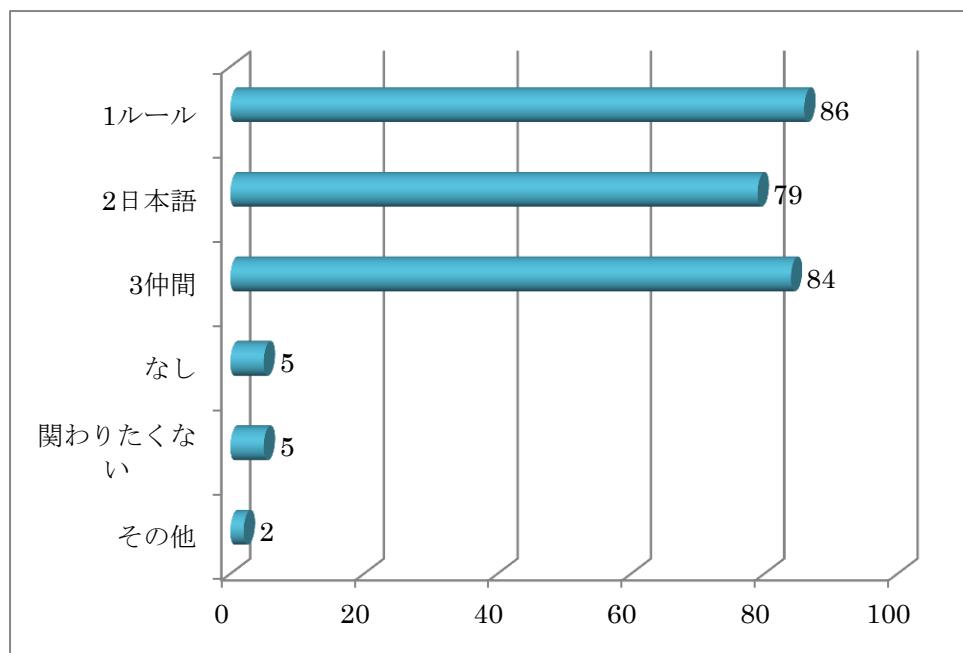


Figure 2 同一コミュニティーに住む難民にできると考える支援 (有効回答数: 182)

こちらは質問作成時、「難民とはかかわりたくない」と答える人が多いのではないかと思った。しかし、結果は積極的に難民が溶け込めるよう積極的にかかわりたいと回答する人が多かった。従って、難民と共に住むことになっても、助け合って生活する覚悟ができる人は多いのだろう。しかし、逆に言えば、難民と共に住む際、自分たちのしきたりを教えなんとしても守ってほしい、突飛な行動や自国の文化を押し付けないでほしい、という考え方を返しともとれるだろう。となれば、やはり多文化共生意識はまだ低い、とも捉えられる。

K) 日本政府は世界の難民に対し第三国定住として日本を提案し、難民のための環境整備を進めています。そのことをどう感じますか？

1. 賛成
2. やや賛成
3. やや反対
4. 反対
5. どちらでもない
6. 分からない

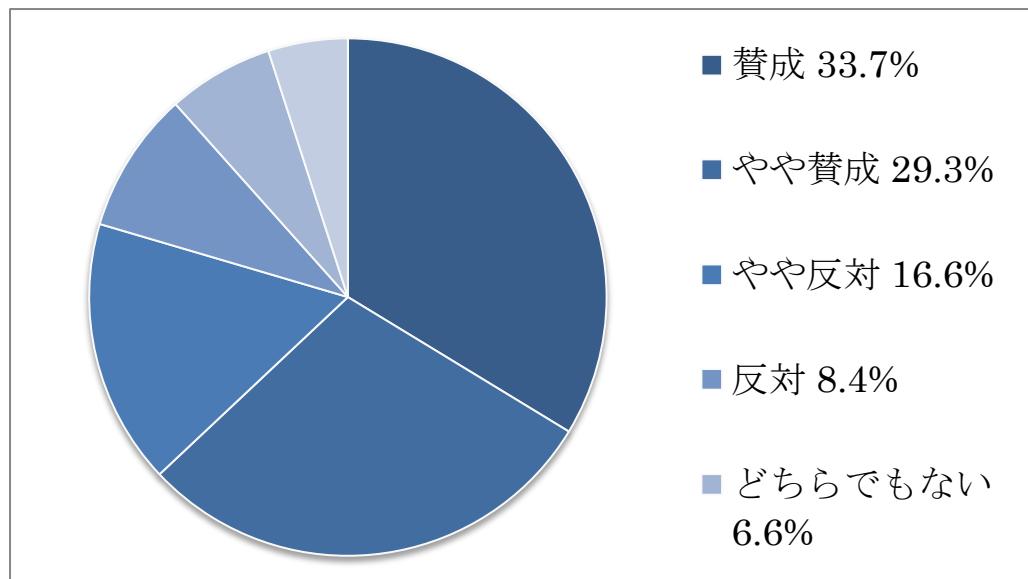


Figure 3 難民受け入れの是非（百分率は端数処理済みのため合計が100%になっていない）

こちらは、賛成・どちらかと言えば賛成が過半数だった。しかし、その中には「条件付きで」などと回答している方も多く、無条件の受け入れとはやはりいかないようである。

――ご協力ありがとうございました。

今回のアンケートはたけまさ公一と語る会（2014年3月30日）の
インターン生共同研究において、資料として有効活用させていただきました。――